読書感想文コンクール　小学校4･5･6年生の部

入選

森久保　蒼（もりくぼ　そう）由木中央小 5 年生

作品名:「子犬きららとすて犬未来」を読んで

図書:子犬のきららと捨て犬未来　まあるいしっぽ

「心からの親友」と呼べる人は、果たして私にいるのだろうか。

動物愛護センターに収容されたすて犬の、きらら。「私は、一生この狭いおりの中で生活するのだろうか」と思っていたその時、きららを助けてくれる人が見つかった。そこから、その家に住んでいた犬の未来と飼い主ときららの物語が始まった。

きららは、人間とくらした事がない。人間の気持ちが分からない。毎日、そうじ機の音を聞く度にほえてしまい、飼い主に怒られる。ある日リビングの宝石箱に、きららの乳歯が大切に入ってあるのを見つけた。その時、きららはずっと見はなされていると思っていたけれど、とても愛されている事が分かった。

人間と犬、言葉は通じなくても、心をかよわせる事ができると、私は思った。言葉が、通じないからこそ、人間と犬はより仲良くならなくてはいけないと思う。

家族と一緒にいる時間を大切に過ごし、やっと幸せな生活を送る事ができた、きらら。明るい安心できる日々が送れて、私は心からよかったと思いました。

昨年、私の友達が大会の選手からはずされひどく落ちこんでいる時、一緒に食事をした。休みの日も練習し、家でも毎日欠かさず努力をしていた友達。大会に出られると信じていたのに、実力が及ばずとつ然補欠となった。

くやしがっていた友達に、私は側へ行き、

「次の大会で、がんばって」

「今までがんばってきた事は、ムダじゃないと思うよ。」

「そのくやしさを、次に活かしてほしい。」

「がんばっている姿を見ている人は、沢山いると思うよ。」

などと、はげましの言葉をかけた。

友達は、少し涙をうかべながら、

「ありがとう。元気をもらったよ。」

「次の大会でがんばってみるね。」

「くやしさをバネに、練習をがんばるね。」
と前向きな気持ちで、私に言った。
そのしゅん間、おたがいの気持ちや関係が、さらに深まった。
　相手の立場になって、どんな時でも考える事の大切さを、この時知った。
自分の事を、人に分かってもらうためには、まず言葉で伝え、気持ちを通わせる事が必要なんだなと実感した。
　私はこの本を読んで、飼い主と未来ときららの関係を、自分自身におきかえて、改めて自分と友達の関係を考えるきっかけとなりました。
　ＳＮＳが広がる今、友達の関係は質より、量になってきています。
　心からの親友とは、顔を合わせ、話し、相談したりすることで、悲しみや苦しみを乗り越え、関係をより深めていくことだと、私は思います。
　これから先、もっと心からの親友を増やしいろいろな事を乗りこえて、がんばっていきたいと思います。